

印刷業界の「低炭素社会実行計画」

		計画の内容
1. 国内の 企業活動に おける 2020 年の削減目 標	目標	2020年度時点の自主行動計画参加企業の売上高32,000億円を前提とし、2010年度の原油換算原単位21.15KI/億円を年平均1%改善し、2020年度には19.13 KI/億円までの改善を目指し、CO2排出量は、106.0万トンから8.5万トン削減し、97.5万トンとすることを旨とする。 【前提条件】 2020年度における ①売上高を32,000億円 ②各使用エネルギー構成比率は2010年度と同じ ③電力の排出係数及び熱エネルギーの各換算係数は2010年度と同じと想定してCO2排出量の水準の達成を目指す。
	設定 根拠	原油換算原単位を 2010 年度以降、年平均 1%削減する施策として、原単位改善に寄与している空調関係及び動力関係の設備更新、新設等を計画的に実施する。 更に消費エネルギーの「見える化」を推進して、効率的なエネルギー利用を図る。
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減		・ バイオ資源の有効活用の推進。 ・ 高効率乾燥設備の開発の推進 ・ 省エネ型印刷主要資材の開発の推進 ・ グリーンプリンティング製品認定の推進
3. 海外での削減貢献		・ 世界印刷会議（WPCF）、アジア印刷会議（FAGAT）等の国際交流を通じて、各国との情報交換及び日本の印刷業界における省エネ技術の紹介等により、国際貢献を図る。 ・ 脱墨等の環境技術標準化の推進（ISO TC130 WG11 での活動）
4. 革新的技術の開発・導入		○印刷設備 ・ 省エネ型印刷設備の導入 ①デジタル印刷機の導入促進 ②高効率印刷機の導入促進 ○低温乾燥システム・技術の開発 ○印刷乾燥工程の省エネ ①UV光源をLED光源に代替 ②印刷インキのハイソリッド化 ③印刷版の浅版化 ④乾燥排熱の有効利用
5. その他の取組・特記事項		特にありません。

印刷業における地球温暖化対策(低炭素社会実行計画)の取組

平成 26 年 12 月 24 日
一般社団法人 日本印刷産業連合会

I. 印刷業の概要

(1) 主な事業

出版印刷物、商業印刷物、証券印刷物、事務用印刷物、包装その他特殊印刷物等を生産する製造業。

(2) 業界全体に占めるカバー率

※業界の市場規模は、経済産業省工業統計15類の製品出荷額(2012年度)を記載した。また、自主行動計画参加企業の売上規模も2012年度の売上高を記載している。

※計画参加企業数と参加企業売上規模の割合は、それぞれ業界全体の企業数と市場規模と比較したものである。市場規模には社団法人日本印刷産業連合会(以下、日印産連)の会員以外の企業も含まれるが、会員企業で市場規模のほぼ全体をカバーするものと推計している。

※印刷産業は中小・零細企業が多く、本計画参加企業数でみると95社、カバー率0.3%であるが、大手企業を中心に参加しており、売上高で見るとそのカバー率は54.9%に達している。

業界全体の規模		業界団体の規模		低炭素社会実行計画 参加規模	
企業数	28,247社	団体加盟 企業数	8,464社	計画参加 企業数	95社 (0.3 %)
市場規模	売上高 56,169億円	団体企業 売上規模	売上高 約54,500億円	参加企業 売上規模	売上高 30,809億円 (54.9 %)

(3) 計画参加企業・事業所

① 低炭素社会実行計画参加企業リスト

別紙1参照。

② 各企業の目標水準及び実績値

別紙2参照。(個別企業の目標水準・実績については、非開示としています。)

(4) カバー率向上の取組

- ・環境自主行動計画の取組状況を当連合会ホームページに掲載すると共に、関連委員会、パンフレット等で広く参加を勧誘。
- ・当連合会が制定した印刷サービスの「グリーン基準」に、「環境自主行動計画」への参加を求めている。

Ⅱ. 国内の企業活動における2020年の削減目標

(1)削減目標

① 目標

削減目標（2012年11月策定）

環境自主行動計画参加事業者のCO₂排出量を、106.0万トンから8.5万トン削減し、97.5万トンとすることを旨とする。（基準年度2010年）

② 前提条件

- ・工場における、主に製造工程で排出するCO₂を対象とした。
- ・電力排出係数は、0.316kg-CO₂/kWh（固定）とした。
- ・印刷業界の「低炭素社会実行計画」に基づき、活動量、省エネ量を算定した。

③ 目標指標選択、目標水準設定の理由とその妥当性

【目標指標の選択の理由】

印刷業界は、工場の製造工程からのCO₂排出量が殆どであるため、これを印刷業界の対策評価指標として選定した。

【目標水準の設定の理由、自ら行いうる最大限の水準であることの説明】

以下のような対策内容を進めている。

- ・省エネ型印刷設備導入（高効率印刷機・製版機器など）
- ・低温度乾燥システムの導入、関連する技術開発
- ・印刷乾燥工程の省エネ化
（UV光源のLED化、印刷インキのハイソリッド化、印刷版の浅版化、乾燥排熱の有効利用など）

【導入を想定しているBAT（ベスト・アベイラブル・テクノロジー）、ベストプラクティスの削減見込量、算定根拠】

BAT ・ベストプラクティス	削減見込量	算定根拠 （左記の設備機器がBATである根拠、導入スケジュールを含む）
	関連機器・機種等が多く、効果は算定出来ておりません。	

④ データに関する情報

指標	出典	設定方法
生産活動量	☐ 統計 ☒ 会員企業アンケート ☐ その他(推計等)	2014年7月実施の「日印産連「地球温暖化対策(低炭素社会実行計画)・循環型社会形成の自主行動計画」の実績データ収集に関する調査」を実施
エネルギー消費量	☐ 統計 ☒ 会員企業アンケート ☐ その他(推計等)	同 上
CO2排出量	☐ 統計 ☒ 会員企業アンケート ☐ その他(推計等)	同 上

⑤ 係数に関する情報

排出係数	理由／説明
電力	☐ 実排出係数 ☐ 調整後排出係数 ☒ 特定の排出係数に固定 ☐ 過年度の実績値(年度:) ☒ その他(説明: 排出係数および発熱量は2010年度実績) 上記排出係数を設定した理由: 印刷業界の「低炭素社会実行計画」策定時の条件を適用した。
その他燃料	☒ 低炭素社会実行計画のフォローアップにおける係数(総合エネルギー統計2012年度確報版)を利用 ☐ その他(内容・理由:)

⑥ 業界間バウンダリーの調整状況

他業界との間でバウンダリーの確認は行っていないが、参加企業単位で電気・電子業界、インキ業界等とのバウンダリーの重複を避けて集計した。
--

⑦ 自主行動計画との差異

- ☐ 別紙3参照
☒ 差異なし

(2)実績概要

① 2013 年度における実績概要

【目標に対する実績】

目標指標	基準年度	目標水準	2013年度実績(基準年度比) ()内は、2012年度実績
CO2排出量	2010	▲8.0 %	▲ 10.1% (▲ 7.4%)

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 0.316kg-CO₂/kWh、平均発熱量は 88.1GJ/万 kWh を用いた。(発電端)

(参考：受電端係数)

目標指標	基準年度	目標水準	2013年度実績(基準年度比) ()内は、2012年度実績
CO2排出量	2010	▲8.2 %	▲ 9.6% (▲ 7.1%)

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 0.350kg-CO₂/kWh、平均発熱量は 96.3GJ/万 kWh を用いた。(受電端)

(参考：温対法調整後の排出係数、変動係数)

目標指標	基準年度	目標水準	2013年度実績(基準年度比) ()内は、2012年度実績
CO2排出量	2010	-- %	26.0% (16.2%)

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 0.570kg-CO₂/kWh、平均発熱量は 94.84GJ/万 kWh を用いた。(受電端)

【CO2 排出量実績】

CO2排出量 (万t-CO ₂)	CO2排出量 (万t-CO ₂) (前年度比)	CO2排出量 (万t-CO ₂) (基準年度比)
95.1	▲3.0 %	▲10.1 %

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 0.316kg-CO₂/kWh、平均発熱量は 88.1GJ/万 kWh を用いた。(発電端)

(参考：受電端係数)

CO2排出量 (万t-CO ₂)	CO2排出量 (万t-CO ₂) (前年度比)	CO2排出量 (万t-CO ₂) (基準年度比)
101.7	▲2.7 %	▲9.6 %

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 0.350kg-CO₂/kWh、平均発熱量は 96.3 GJ/万 kWh を用いた。(受電端)

(参考：温対法調整後の排出係数、変動係数)

CO2排出量 (万t-CO ₂)	CO2排出量 (万t-CO ₂) (前年度比)	CO2排出量 (万t-CO ₂) (基準年度比)
142.0	8.4 %	26.0 %

(注) 電力排出係数は、調整後排出係数 0.570kg-CO₂/kWh、平均発熱量は 94.84GJ/万 kWh を用いた。(受電端)

② データ収集実績(アンケート回収率等)、特筆事項

アンケート回答率 99%(アンケート配付 96 社に対し、有効回答数 95 社)
1社は製本会社で、経営陣がかわり業態が変化し、本計画の参加を辞退。

③ 生産活動量、エネルギー消費量・原単位、CO₂ 排出量・原単位の実績(実排出係数、クレジット調整後排出係数、排出係数固定、業界想定排出係数) 別紙4-1参照。

○低炭素社会実行計画の実績(発電端、クレジット調整後電力係数)

			2010 年度 基準年度	2012 年度 (実績)	2013 年度 (実績)	2020 年度 目標年度
計画値	売上高	億円	31,528	31,622	31,669	32,000
	原油換算原単位	kl/億円	21.15	20.73	20.52	19.13
	CO ₂ 排出量	万 t-CO ₂	106.0	104.4	103.5	97.5
実績値	売上高	億円	31,397	30,809	30,206	
	原油換算原単位	kl/億円	21.17	20.22	20.20	
	CO ₂ 排出量	万 t-CO ₂	105.8	98.0	95.1	
目標水準 ((2020-2010)/2010)						-8.0%
実績水準 ((実績年-2010)/2010)				-7.4%	-10.1%	
対前年度比				-7.4%	-3.0%	

- 注) ・ 2010 年度のエネルギー種別構成および電力排出係数(発電端、クレジット調整後)、熱エネルギー換算係数を使用
・ 原油換算原単位を年1%改善させるものとし、目標値(CO₂ 排出量)を設定
・ 目標策定条件と同条件で実績を計算

参考) 低炭素社会実行計画の進捗状況(受電端、クレジット調整後電力係数)

			2010 年度 基準年度	2012 年度 (実績)	2013 年度 (実績)	2020 年度 目標年度
計画値	売上高	億円	31,528	31,622	31,669	32,000
	原油換算原単位	kl/億円	22.48	22.03	21.81	20.33
	CO ₂ 排出量	万 t-CO ₂	112.9	111.0	110.0	103.6
実績値	売上高	億円	31,397	30,809	30,206	
	原油換算原単位	kl/億円	22.49	21.54	21.56	
	CO ₂ 排出量	万 t-CO ₂	112.5	104.5	101.7	
目標水準 ((2020-2010)/2010)						-8.2%
実績水準 ((実績年-2010)/2010)				-7.1%	-9.6%	
対前年度比				-7.1%	-2.7%	

- 注) ・ 2010 年度のエネルギー種別構成および電力排出係数(受電端、クレジット調整後)、熱エネルギー換算係数を使用
・ 原油換算原単位を年1%改善させるものとし、目標値(CO₂ 排出量)を設定
・ 目標策定条件と同条件で実績を計算

【生産活動量】

参加企業の売上は、2013 年度 30,206 億円で前年比 98%と減少している。ネットワーク化、デジタル化の進展により、印刷需要が 2008 年度より継続して下がっており、本年度は 2010 年度(基準年度)比 96%となっている。

【エネルギー消費量、エネルギー消費原単位】

(エネルギー消費量)

2013 年度のエネルギー消費量 61.0 万 KL であり、2010 年(基準年度)の 66.5 万 KL と比べると 8%の削減となっている。

(エネルギー消費原単位)

2013 年度のエネルギー消費原単位は、動力モーターのインバーター化や燃料種の変更、また省エネ空調機への更新等により 20.20KL/億円で、2010 年(基準年度)の 21.17KL/億円に比べ 5%の削減となっている。「工場等判断基準」における年 1%以上の改善目標も、全体としては満たしている。

【CO2 排出量、CO2 排出原単位】

(CO2 排出量)

2013 年度の調整後排出係数を用いた CO2 発生量は、2010 年(基準年)に比べ 10.8 万 t-CO2 減少している。これは排出係数変化分が 4.3 万 t-CO2 と増えているものの、事業者の省エネ努力分▲4.4 万 t-CO2、燃料転換等▲6.7 万 t-CO2、生産変動分▲4.0 万 t-CO2 であり、省エネ効果が認められる。

(CO2 排出原単位)

排出原単位でみても、2010 年(基準年)に比べ▲2.2t-CO2/億円減少している。
これは主に、事業者の省エネ努力分▲2.1t-CO2/億円によりもたらされたものであり、省エネ効果が認められる。

④ 国際的な比較・分析

外国における印刷業界の、CO2 排出量等の環境に対する数字は、明確になっていない状況であります。

⑤ 実施した対策、投資額と削減効果

《投資額》実績と予定

		2013 年度
照明関係	千円	101,886
空調関係	千円	1,144,654
動力関係	千円	1,118,726
受変電関係	千円	113,800
その他	千円	107,691
合計	千円	2,586,757

《CO2 削減効果》実績と予想

		2013 年度
照明関係	t-CO2	910.64
空調関係	t-CO2	11,663.90
動力関係	t-CO2	10,070.00
受変電関係	t-CO2	731.00
その他	t-CO2	1,010.35
合計	t-CO2	24,385.89

⑥ 投資実績の考察と取組の具体的事例

(考察) 空調関係、動力関係の効果が高い。	
(取組の具体的事例) ・高効率モーターの採用 ・乾燥排熱の利用、LED 照明、UV の LED 乾燥、エネルギーの見える化、デマンドコントロール ほか	

⑦ 今後実施予定の対策、投資予定額と削減効果の見通し

対策投資と CO2 削減効果

《投資額》実績と予定

		2014 年度	2015 年度
照明関係	千円	175,474	47,534
空調関係	千円	980,797	898,700
動力関係	千円	1,752,284	421,818
受変電関係	千円	105,000	3,400
その他	千円	234,310	174,860
合計	千円	3,247,865	1,546,312

《CO2 削減効果》実績と予想

		2014 年度	2015 年度
照明関係	t-CO2	1,287.90	864.50
空調関係	t-CO2	4,889.44	7,093.20
動力関係	t-CO2	16,219.10	12,964.70
受変電関係	t-CO2	209.00	129.70
その他	t-CO2	1,372.00	453.50
合計	t-CO2	23,977.44	21,505.60

⑧ 目標とする指標に関する 2013 年度の見通しと実績との比較・分析結果及び自己評価
別紙4-1、4-2参照。

想定比： $465\% \text{ (CO2 排出量ベース)} = (105.8 - 95.1) / (105.8 - 103.5) \times 100$ 分析・自己評価： 目標設定時の計算方法により評価すると、2010 年度を基準年度とし、毎年原単位 1%の改善を目標としていた。今年度はそれを大きく上回り 465%の実績となっている。これは事業者の活動量の減少(売上減少)と動力関係の更新、見直し等の省エネ努力が寄与している。
--

- (注1) 想定比 = (基準年度の実績水準 - 当年度の実績水準) / (基準年度の実績水準 - 当年度の想定した水準) × 100 (%)
- (注2) BAU 目標を設定している場合は、
 想定比 = (当年度の削減量実績) / (当年度の想定した削減量) × 100 (%)

⑨ 2014 年度の見通し

別紙4-1、4-2参照。

見通しの設定根拠

印刷業界は、⑦より 2014 年度に約 2.4 万 t-CO₂ の削減を見込んでいる。しかしエネルギー消費に対する電力の比率が約 78%となっており、電力排出係数の影響が大きい。

⑩ 2020 年度の目標達成の蓋然性

別紙4-1、4-2参照。

進捗率:

(CO₂ 排出量ベース) 129% $= (105.8 - 95.1) / (105.8 - 97.5) \times 100$

分析・自己評価:

前述のように CO₂ 排出量で見ると、現在目標の 129%になっており、計画は順調に進んでいる。印刷業界の今後の生産予測は不透明であることから、当面は現状の目標を維持し、今後も印刷設備、付帯設備、電力系統を含め効率的なエネルギー利用を進めていく。

(注1) 進捗率 = (基準年度の実績水準 - 当年度の実績水準)

／ (基準年度の実績水準 - 2020 年度の目標水準) × 100 (%)

(注2) BAU 目標を設定している場合は、

進捗率 = (当年度削減量実績) / (2020 年度の目標水準) × 100 (%)

⑪ クレジット等の活用実績・予定と具体的事例

【活用方針】

クレジット等の活用予定は、ありません。

【活用実績】

別紙7参照。

【具体的な取組】

該当事項なし。

(3) 業務部門(本社等オフィス)における取組

① 業務部門(本社等オフィス)における排出削減目標

削減目標:
今後の検討課題とします。

② エネルギー消費量、CO₂排出量等の実績

本社ビル等オフィスについては、その実態把握に務めることとしている。

エネルギー管理指定工場に該当する、本社ビル等を有する企業(2 社)からの報告を取りまとめたオフィスの CO₂ 排出実績は、以下のとおり。

本社オフィス等の CO₂ 排出実績(大手2社計)

	2005 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
エネルギー消費量(kl)	12,605	14,851	14,084	13,750	12,451	9,567	9,912
CO ₂ 排出量(万t-CO ₂)	2.18	2.30	2.06	2.02	2.39	1.87	2.28

※電力はクレジット調整後の受電端排出係数を使用

③ 実施した対策と削減効果

- ・空調機一部停止 1400 kWh/月削減
- ・照明の間引き、消灯 2000kWh/月削減
- ・トイレの電気温水器設定温度変更 100kWh/月削減

④ 実績の考察と取組の具体的事例

(考察)

本社オフィス等の対象となる 2 棟のうち、1 棟は 2006 年に竣工し、省エネ設計になっており、更なる省エネは難しい。また別の 1 棟は近々建替えを予定しており、設備投資を伴う改善は難しい状況である。

(取組の具体的事例)

- ・空調機一部停止
エレベータ乗場の空調機を 13 時～16 時停止、サブ変電室の送排風機夜間 2 時間停止により 1400 kWh/月削減
- ・照明の間引き、消灯
エレベータ前の照明間引き、展示室及び前室の照明消灯、一部居室照明消灯により 2000kWh/月削減
- ・トイレの電気温水器設定温度変更
トイレの電気温水器設定温度を 60℃→55℃に変更することにより 100kWh/月削減
- ・本社ビル照明の全面 LED 化を実施

⑤ 今後実施予定の対策と削減効果の見通し

氷蓄熱設備を導入しており、その効率的な運用を図る。

(4) 運輸部門における取組

① 運輸部門における排出削減目標

削減目標:〇〇年〇月策定
自主行動計画の対象外としている。

② エネルギー消費量、CO2排出量等の実績

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
輸送量 (トン・km)								
エネルギー消費量 (MJ)								
CO2 排出量 (万 t-CO2)		自主行動計画の対象外としている。						
エネルギー原単位 (MJ/m ²)								
CO2 排出原単位 (t-CO2/トン・km)								

③ 実施した対策と削減効果

対策項目	対策内容	削減効果
自主行動計画の対象外としている。		t-CO2/年 削減
		t-CO2/年 削減

④ 実績の考察と取組の具体的事例

(考察)
該当事項は、有りません。

(取組の具体的事例)

⑤ 今後実施予定の対策と削減効果の見通し

対策項目	対策内容	削減効果
自主行動計画の対象外としている。		t-CO2/年 削減
		t-CO2/年 削減

Ⅲ. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献

(1) 低炭素製品・サービス等の概要、削減見込量及び算定根拠

低炭素製品・サービス等	当該製品等の特徴、従来品等との差異など	削減見込量	算定根拠、データの出所など
グリーンプリンティング製品認証	環境に配慮した印刷製品の提供	未確定	なし

(2) 2013 年度の実績

低炭素製品・サービス等	取組実績	削減効果
グリーンプリンティング製品の製造・提供	環境に配慮した資材を使用し、環境に配慮した印刷工場で製造した印刷製品にGPマークを表示している。	約3億部製造

(3) 2013 年度実績の考察と取組の具体的事例

(考察) 印刷業界の環境配慮基準である「印刷サービス」グリーン基準の制定、および印刷業界への周知と運用推進を図る目的で創設したグリーンプリンティング認定制度を運用・実施している。これにより、環境に配慮した印刷製品の提供を進めている。 (取組の具体的事例) グリーンプリンティング製品認定の実施。 エコプロダクツ 2013 に出展し、「印刷物での環境を考える」等の展示を行い、同展に集まる小学生をはじめ学生・主婦等に向け、広範な活動を進めた。

(4) 今後実施予定の取組

(2014 年度に実施予定の取組) エコプロダクツ 2014 に出展を予定している。 (2020 年度に向けた取組予定) 環境関連の展示会への出展等、広範な活動を実施していく。
--

IV. 海外での削減貢献

(1) 海外での削減貢献の概要、削減見込量及び算定根拠

海外での削減貢献等	削減貢献の概要	削減見込量	算定根拠、データの出所など
環境技術標準化	ISO TC130/WG11(印刷)での取組	未確定	なし
情報交換	海外関連業界団体との情報交換	未確定	なし

(2) 2013 年度の実績

海外での削減貢献等	取組実績	削減効果
環境標準化	ISO TC130/WG11(印刷)で紙リサイクル・脱墨の国際標準化について内容を詰めている。	未確定
情報交換	スクリーン・シール印刷部門の上海会議で、環境に対する取組を紹介した。	未確定

(3) 2013 年度実績の考察と取組の具体的事例

(考察) 紙リサイクル・脱墨について国際標準化が進められており、連携を図っていく。 (取組の具体的事例) ISO TC130/WG11(印刷)への参画

(4) 今後実施予定の取組

(2014 年度に実施予定の取組) ・海外の業界団体と、環境に対する取組について情報交換を図る。 ・ISO TC130/WG11(印刷)への参画 (2020 年度に向けた取組予定) ・世界印刷会議、アジア印刷会議等の国際交流を活用し、情報交換を図る。
--

V. 革新的技術の開発・導入

(1) 革新的技術の概要、導入時期、削減見込量及び算定根拠

革新的技術	技術の概要 ・革新的技術とされる根拠	削減見込 量	算定根拠、データの出所など
省エネ型印刷機	デジタル印刷機・高効率印刷機の開発、導入	未確定	
乾燥工程の高効率化1.	UV光源のLED光源化	未確定	
乾燥工程の高効率化2.	乾燥排熱の有効利用	未確定	
省エネ型印刷システム1.	印刷インキのハイソリッド化	未確定	
省エネ型印刷システム2.	印刷版の浅版化	未確定	

(2) 2013 年度の実績

革新的技術	取組実績
省エネ型印刷機導入	省エネ型デジタル印刷機の基準を設け、業界での認定を実施(グリーンプリンティング資機材認定制度)
乾燥工程の高効率化1.	UV乾燥機の光源をLEDにした、省電力UV印刷機の導入が増えている。
乾燥工程の高効率化2.	リサイクル乾燥型の乾燥設備の導入を推進
省エネ型印刷システム1.	インキ濃度を高めたコンクタイプのインキを使用し、インキ使用量の削減、2度印刷工程のワンパス化が普及してきた。
省エネ型印刷システム2.	コンクタイプのインキを使用することにより、印刷版深度を浅く(約5 μ 程度)した、省エネ印刷システムの利用が始まる。

(3) 2013 年度実績の考察と取組の具体的事例

(考察)

設備更新と各種省エネ型機器を導入し、実績につなげた。

(取組の具体的事例)

印刷業界として、省エネ対応の資機材を認定するグリーンプリンティング資機材認定制度を運営しており、既に「ファクリー型デジタル印刷機」の認定基準を設け、認定をはじめている。

(4) 今後実施予定の取組とスケジュール

(2014 年度の実組予定)

前述のグリーンプリンティング資機材認定制度に、「オフィス型デジタル印刷機」の認定を加え、製品の充実を図る。

(今後のスケジュール)

2015、3 月から「オフィス型デジタル印刷機」の認定を開始する予定。

VI. その他の取組

(1) 2020年以降の低炭素社会実行計画・削減目標

項目		計画の内容
1. 国内の企業活動における2030年の削減目標	目標	CO2排出量2010年度比▲16.9%(2030年度のCO2排出量:88.2万t-CO2)
	設定根拠	<u>対象とする事業領域</u>: 印刷製造工程 <u>将来見通し</u>: 印刷業界の生産動向と活動の連続性を考慮し、先に計画した2020年度の「低炭素社会実行計画」に則り、2020年度以降の自主行動計画参加企業の年間売上高を32,000億円の同一水準(横這い)とし、2010年度の原油換算原単位21.15kg/億円を年平均1%改善し、2030年度には17.30kg/億円とし、CO2排出量を106.2万トンから18万トン削減し、88.2万トンとすることを目指す。 <u>BAT</u>: 下記4.の印刷設備、低温乾燥および印刷工程の最大限の省エネ化を図る。 <u>電力排出係数</u>: 0.316kg-CO2/kWh(2010年度調整後排出係数、発電端)
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減貢献		<u>削減貢献量</u>: (未算定) 1) 生分解性プラスチック等バイオ資源の有効活用 2) カーボンオフセット製品の拡充 3) グリーン電力の活用 4) 製品の軽量化
3. 海外での削減貢献		1) 世界印刷会議(WPCF)、アジア印刷会議(FAGAT)等での国際交流を通じて、各国との情報交換および日本の印刷業界における省エネ技術の紹介等、国際貢献を図る。 2) 紙リサイクル等の環境技術標準化の推進(ISO TC130(印刷)での活動等)
4. 革新的技術の開発・導入		<u>削減貢献量</u>: (未算定) 1) 印刷設備: 省エネ型印刷設備の導入 デジタル印刷機、高効率印刷機の導入促進 2) 低温乾燥 低温乾燥システム、低温乾燥インキの開発 3) 印刷工程 UV光源のLED化、印刷インキのハイソリッド化、印刷版の浅版化、乾燥排熱の有効利用 4) 環境配慮型印刷システム 「グリーンプリンティング認定制度」を活用した開発・導入促進
5. その他の取組・特記事項		特に有りません。

(2) 情報発信

① 業界団体における取組

- ・当連合会ホームページでの告知
- ・印刷サービスの「グリーン基準」に、環境自主行動計画への参加を記載。

② 個社における取組

- ・エコプロダクツ 2013 ほか環境関連の展示会への出展
- ・平成 25 年度省エネ大賞省エネ事例部門賞を受賞
- ・各社、環境報告書、CSR 報告書の作成、発表

③ 取組の学術的な評価・分析への貢献

- ・カーボンフットプリント、カテゴリープロダクトルールを設定している。
- ・ISO TC130/WG11(印刷)でカーボンフットプリント、PCR を設定している。

(3) 家庭部門(環境家計簿等)、リサイクル、CO2 以外の温室効果ガス排出削減等の取組

- ・冷媒、消火剤として使用している代替フロン(HFC、PFC)のガス漏れ点検やメンテナンスを継続している。また不要になった該当ガスについては、改正フロン回収・破壊法に則り、適性に処理している。
- ・電機絶縁ガスとして使用されている SF6 のガス漏れ点検等、メンテナンスを継続している。
- ・「古紙リサイクル適性ランクリスト」の充実を進めており、本年度はトナー・インキジェット方式のデジタル印刷について、評価を行った。(ランク付けは、H26 年度実施)

(4) 検証の実施状況

① 計画策定・実施時におけるデータ・定量分析等に関する第三者検証の有無

検証実施者	内容
■ 政府の審議会	
■ 経団連第三者評価委員会	
☐ 業界独自に第三者(有識者、研究機関、審査機関等)に依頼	☐ 計画策定 ☐ 実績データの確認 ☐ 削減効果等の評価 ☐ その他()

② (①で「業界独自に第三者(有識者、研究機関、審査機関等)に依頼」を選択した場合) 団体ホームページ等における検証実施の事実の公表の有無

☐ 無し	
☐ 有り	掲載場所: